

2025年度 町田市立堺中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 知性を磨き、心情を培い、意志を鍛える	学校経営の重点 ①生徒の自己肯定感を高め、学び続ける力の向上を図る ②組織的な授業改善に取り組み、教師の指導力向上を目指す ③地域の外部人材を積極的に取り入れキャリア教育を充実させる
○目指す学校像……①心身ともに安全で、誰もが安心して通える学校 ②家庭や地域と連携し、地域社会に開かれた学校 ○目指す生徒像……①主体的に学びに向かい「学び続ける力」を培った生徒 ②自他を大切に、さわやかにあいさつのできる生徒 ○目指す教師像……①人権を大切に、生徒の可能性を引き出すことができる教師 ②新しい発想を取り入れ、組織的に行動・実践できる教師 ③研究・研修に努め、授業で勝負する教師	重点目標の成果と課題 自己肯定感の向上については、研究テーマとして取り組むことで、自ら学ぶ意欲の向上につなげることができた。また、学校全体で取り組んだ「個別最適な学び」「協働的な学び」を取り入れた授業作りは、教師の意識改革につながった。キャリア教育については、計画的に外部講師を活用することで、生徒が自身の将来について考えるきっかけとなった。研究指定校として2年間取り組んだ成果を生かし、さらなる「学び続ける力」の向上のため、次年度以降も生徒の主体的な活動を重視していく。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な学校の情報発信に努め、保護者や地域と共有を行う。	学校だよりや保健だより、SAKAINOWの掲載等を含め、ホームページの更新を定期的に行う。	4 月8回以上の更新 3 月6回以上の更新 2 月4回以上の更新 1 月4回未満の更新	4	A	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	79.7	B	ホームページの更新、学年・学校だより等のtetoru配信は、概ね高い数値である。引き続きデジタルと紙での情報発信を併用して進めていく。	情報発信についての成果評価は昨年に引き続きBであるが、概ね高い数値である。引き続きデジタルと紙での情報発信を併用して進めていく。地域文化による老人ホーム等の地域との連携も定着し、今後も継続していく。コミュニティスクールについては、活動をPRしていくことでさらに認知度を上げていく必要がある。	保護者の学校に対する要望は年々高まっていると感じる。学校の取組について引き続き情報発信をしていくことで、理解を求めていく必要がある。すべての要望に応えるのではなく、学校のスタンスをしっかりと伝えていく。地域での活動が活発になるのは良いことではあるが、生徒・教員ともに負担増にならないよう、工夫していけるとよい。	A	
			行事や授業参観の保護者の参加率を上げ、学校の取組への理解を図る。	4 保護者の参加率70%以上 3 保護者の参加率50%以上 2 保護者の参加率30%以上 1 保護者の参加率30%未満	3	B	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	79.7	B	地域での活動については、生徒会が中心となって行う地域清掃、文化部による地域での交流が定着し、数値が大幅に伸びた。65%→89%				
		地域や家庭との連携を強化する。	地域行事への参加、生徒会や部活動を通じた地域での活動や交流	4 年間3回以上の活動・交流 3 年間2回以上の活動・交流 2 年間1回以上の活動・交流 1 活動・交流の機会がなかった	4	A	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	89.6	A	コミュニティスクールについても、学校だよりを通じて学校運営協議会の様子伝えることができて、保護者の認知度が上がってきたと思われる。80%→89%				
			コミュニティスクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。	4 年間6回以上の意見交換 3 年間4回以上の意見交換 2 年間2回以上の意見交換 1 年間2回未満の意見交換	3	B	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	89.2	A					
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	授業の充実と自ら学ぶ力を育てる。	各教科の授業で、生徒がChromebookを使用する場面を効果的に取り入れる。	4 授業での利用率30%以上 3 授業での利用率20%以上 2 授業での利用率10%以上 1 授業での利用率10%未満	3	B	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	74.6	B	2年間の授業研究の成果もあり、Chromebook利用率は上昇した。68%→74% また協働的な学びも意識的に取り入れることで、生徒の表現活動の場も増え、研究として取り組んだ成果が見られた。学習教室の参加数は、会場のキャパシティとボランティアの業務量を鑑みると、取組指標・成果指標に無理があると思われる。参加数の急増は難しいが、定期査前には利用者が多く、生徒のリサーチが必要である。	研究指定校としての取組は終わるが、引き続き個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業作りを推進していく。主体的・対話的で深い学びを継続することで生徒の学力向上につなげていく。 学習教室については、より生徒のニーズに合った学習ボランティアの確保に努め、開催日も改めて精査していく。併せて学習教室への参加は、実情に合った取組指標・成果指標を設定することを検討したい。	令和の日本型学校教育においてICTの利用推進は不可欠であり、研究の取組が定着してきているのは望ましいことである。生徒の確かな学力の定着に向け、今後も対話を重視した授業づくりを期待したい。 学習ボランティアの確保には引き続き地域人材の協力を推進してほしい。	B	
			長期休業中や放課後に学習教室を実施し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。	4 学習室への平均参加数が全校生徒の25%以上 3 学習室への平均参加数が全校生徒の15%以上 2 学習室への平均参加数が全校生徒の10%以上 1 学習室への平均参加数が全校生徒の10%未満	1	D	4 生徒アンケート肯定的評価70%以上 3 生徒アンケート肯定的評価55%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	44.1	D					
		相互啓発のある活気に満ちた授業の工夫をする。	自分の考えを多様な方法で表現させる機会を多く取り入れ、プレゼンテーション能力を向上させる。	4 80%以上の単元で実施 3 70%以上の単元で実施 2 60%以上の単元で実施 1 60%未満の単元で実施	2	C	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	89.1	A					
			他者と対話的な活動を通して協働的な学習(アクティブラーニング)を展開する。	4 80%以上の単元で実施 3 70%以上の単元で実施 2 60%以上の単元で実施 1 60%未満の単元で実施	3	B	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	96.6	A					
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	キャリア教育を推進する。	地域人材や外部講師を活用し、職業観の育成を図るとともに、主体的に進路を選択する力をつける。	4 年間3回以上外部講師を活用した授業を実施 3 年間2回以上外部講師を活用した授業を実施 2 年間1回以上外部講師を活用した授業を実施 1 外部講師を活用した授業の未実施	4	A	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	82.3	A	外部講師の活用については、これからは積極的に外部講師を導入することで生徒が自分自身を見つめる機会を確保していく。	総合的な学習・キャリア教育では、これからは積極的に外部講師を導入することで生徒が自分自身を見つめる機会を確保していく。	教員以外のゲストティーチャーから話を聞くことは、生徒にとってもよい刺激になり進路や将来を考えるきっかけとなる。地域人材を上手に活用し、継続していくとよい。	A	
			キャリアパスポートを活用することで自己を振り返り、将来の目標や夢が語れるようにする。	4 キャリアパスポートを8回以上の場面で活用 3 キャリアパスポートを6回以上の場面で活用 2 キャリアパスポートを4回以上の場面で活用 1 キャリアパスポートの活用場面が4回未満	2	C	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	73.4	B	いじめの未然防止については、保護者の肯定的評価が64%→78%と上昇し、一定の成果が見られた。キャリアパスポートの活用については、今後も工夫が必要である。	道徳教育については、道徳担当や学級担任だけに限らず、ローテーションをするなどの工夫をしながら道徳科の充実を図る。	道徳教育の充実は、いじめの未然防止にもつながるため、今後も工夫と充実を図っていくとよい。		
		他者理解と自己理解を通して、一人一人の自己肯定感を醸成する。	自尊感情測定尺度とQUアンケート、いじめのアンケートを活用し、いじめの見逃しをゼロにする。	4 全てのいじめに対して指導を実施 3 90%以上のいじめに対して指導を実施 2 80%以上のいじめに対して指導を実施 1 80%未満のいじめに対して指導を実施	4	A	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	78.3	B					
			特別の教科 道徳の研修や道徳講演会の実施を通して、道徳教育の充実を図り、生徒の自己肯定感を向上させる。	4 外部講師を招いた研修会を年間3回以上実施 3 外部講師を招いた研修会を年間2回以上実施 2 外部講師を招いた研修会を年間1回以上実施 1 外部講師を招いた研修会を未実施	4	A	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	93.5	A					
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	体力の向上と食育への関心を高め、健康教育の充実を図る。	体力テストの結果分析を生かした保健体育の授業を実施し、日常的に運動に親しむ態度を育成する。	4 80%以上の単元で実施 3 70%以上の単元で実施 2 60%以上の単元で実施 1 60%未満の単元で実施	4	A	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	85.4	A	4項目すべてにおいてアンケートの肯定的数値が80%を超えた。特に「保健・給食を通じた健康安全」の項目は、69%→89%と大きく上昇したのは、全校給食が1年間無事に実施できたことが大きいと思われる。	全校給食も満1年を経過し、今年度はオリジナル献立や保護者向け試食会の実施など新たな取組を行った。次年度も栄養士と連携し実施し、食育を推進していく。	各項目も十分な成果が見られた。体力向上や食育については、安全・安心な学校経営に向け、引き続き高い意識をもって取り組んでほしい。	A	
			家庭と連携して生徒の生活リズムを維持し、食育を通じた健康教育を推進する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満	85.4	A	保健体育の男女共修は2年目となり、体力向上への効果が見られた。引き続き健康・運動への意識を高めていく。	給食試食会は保護者に食育の大切さや安全教育についての情報発信となるよい取組であった。次年度も行っていくとよい。			
		校内の安全な生活環境を整え、自らを守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	保健、安全、給食の計画的な指導を通じて、自他の健康安全を自主的に守ろうとする意欲的な態度を育てる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	89.3	A	避難訓練は、警察署と連携した不審者対応訓練も実施し、生徒の安全意識の向上につながった。				
			避難訓練や不審者に対応等、安全教育を推進する。	4 年間11回以上の避難訓練・安全教育を実施 3 年間9回以上の避難訓練・安全教育を実施 2 年間7回以上の避難訓練・安全教育を実施 1 年間7回未満の避難訓練・安全教育を実施	4	A	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満	83.3	A					
その他														

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。